

●札幌大学×鶴川高校 「歴史総合」の授業での異文化交流を実施しました

日 時：令和5年7月4日(火)

場 所：鶴川高校、四季の館 他

参加者：本学外国人留学生4名、鶴川高校2年生

むかわ町、北海道鶴川高等学校との包括連携協定に基づく連携事業の一環として、同校の「歴史総合」の授業に本学留学生を派遣し、異文化交流を行いました。

本事業は参加留学生のボランティア参画意識、社会貢献意識の醸成へ繋げることや北海道の風土・文化への理解を深めることを目的としており、今回は中国人1名、韓国人2名、ベトナム人1名が参加し、「自国の歴史上の最重要人物（偉人）または最重要出来事」をテーマにお互い発表し合うグループワーク形式で行われました。

留学生にとって初めての経験であり、最初は緊張した面持ちでしたが、グループワークが始まると、発表内容や留学生の母国についての質問に応じるなど、高校生とのコミュニケーションを楽しむ様子も伺えました。

高校生からは「歴史上の出来事を外国の視点で知ることができてとても良かったです。今後歴史について勉強する時は自国からの視点だけではなく相手国の視点から、また第三国の視点からも調べてみようと思いました」「皆さんの発表すごく分かりやすくて、仲良くなれて嬉しかったです！良かったらまた鶴川高校に来てください」などのコメントが寄せられました。高校生と留学生、お互いにとって非常に有意義な時間となったようです。

【Schedule】

- 8:45 大学出発
- 10:05 2年A組との交流会①
- 11:05 2年B組との交流会②
- 13:00 校内見学（体育館、情報室他）
- 14:00 農家訪問、技能実習生との交流
- 15:00 四季の館見学
温泉体験
- 17:00 いっづく堂訪問
- 18:30 大学到着・解散



●交流終了後、校舎内見学や町内施設を訪問しました

【校舎内見学】

体育館や情報教室の見学のほか、家庭科の授業では日本に古くからある伝統手芸の「刺し子」について担当の先生からご説明いただき、地理総合の授業ではテーマが「世界の料理」だったこともあり、留学生が飛び入り参加して母国の料理を紹介するシーンも見られました。

体育の授業 ▼

情報の授業 ▼



【農家訪問】

鶴川高校向かいの農家の近藤さん宅を訪問し、近藤さん、中国人・インドネシア人の技能実習生と、母国の農業や来日理由、日本での生活などについてお話をしました。



【四季の館見学・温泉入浴】

職員の方のご案内で館内を見学し、キーホルダーのプレゼントもいただきました。その後、むかわ温泉の入浴も体験しました。



【いっづく堂訪問】

6月に本学で開催したまちづくりフェスタでもお世話になった、恐竜たいやきのいっづく堂さんを訪問しました。たいやきを初めて食べた留学生もあり、「すごく美味しい！」と喜んでいました。



▲ 家庭科の授業

▲ 地理の授業

●参加した学生からのコメント (+プレゼン資料の一部を掲載します)

今回の授業を準備しながら韓国の歴史の中の日本人をどのように扱うかも悩みましたが、私の考えをどう伝えるかもたくさん悩みました。日本で「偉人」と教えられている人が韓国ではそうではないことを伝えながら、歴史を眺める新しい見方を教えたかったです。さらに、私たちが母国の歴史に関心を持ち、過去の過ちを反省し改善しようとする態度を持つことが重要だという意見を伝えたかったです。授業が終わった後に生徒さんと話しながら日本では私が扱った内容をどう教育されているのか、生徒さんたちはどんな意見を持っているのか聞いて有意義でした。学生たちの意見と終了後に頂いた山口先生からのメッセージのおかげで、私もたくさん学べました。札大でこんな大切な経験ができて嬉しくてありがたかったです。



▲ 歴史文化専攻4年
パク・プルンサンさん (国籍: 韓国)

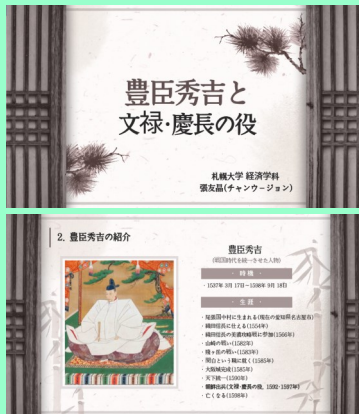


▲ 日本語・日本文化専攻4年
ガン・ヒビさん (国籍: 中国)



今回の交流会は私にとって初体験で、すごく楽しい思い出になりました。今回の交流会のおかげで、日本の青春・学園ドラマにしているような気持ちになりました。みんな元気満々で可愛くて、好きな中国人や食べ物を紹介してくれてとっても嬉しかったです。また、知らなかった日本の偉人も知れて勉強になりました。中国と日本とは海を隔てていますが、政治的にも経済的にも切り離せない隣国であり、歴史的に大きな関わり合いがありました。両国の歴史は単なる友好史だけでなく、血も涙も入り交じった戦争史でもあります。この交流を通して、高校生中国に対する印象が少しでも良くなっていったらと思います。両国がお互いに理解し合えたら、日本と中国はきっと新しい未来を迎えると確信しています。

韓国と日本の歴史は、現在もとても敏感な内容なのでテーマについてすごく悩みました。発表した内容と私の考えがうまく伝わっていればと思います。そして、今回の交流でお互いが学ば歴史にどのような違いがあり、解釈するのか知る機会になればと思います。また、発表を準備しながら日本の歴史ではこの事件をどう解釈しているのか、日本の観点からはこう考えるんだなということがわかりました。歴史を学ぶとき、主にその国で重要視される事件と人物の活躍などを中心に学ぶので、資料を探しながら詳しく知らなかった内容を知ることができて良い勉強になりました。



▲ 経済学専攻4年
チャン・ウジョンさん (国籍: 韓国)



▲ 日本語・日本文化専攻3年
チャン・ティ・ヴィさん (国籍: ベトナム)



ベトナム人の代表として、母国の歴史を日本高校生の皆さんに伝えることができ非常に光栄でした。歴史という領域は、片側から見るだけでは正しく理解することができないと私は思います。昔は支配者により、各国の人々は敵であって戦い合ったことがあるけど、今全員がここに集まって、自国の間違ったことを話したり反省したりすることができてすごいです。ベトナムでもこのような国際交流を行って、多様な見方を学生たちに提供できるならいいなと思っています。今日の交流会に参加する機会が与えられて本当にラッキーだと思います。誠にありがとうございました！

【鶴川高校 山口先生からのコメント】

バフチンというロシアの哲学者の考えに自分の本当の姿は自分には見えず、自分が何者なのかは他者との対話でわかるのだ、このような考えがあります。いきなり何の話かという、日本に住んでいるからこそ、日本の見えていないこともあると思うんです、という持論です。今年新設されたばかりの「歴史総合」は、世界各国の歴史がどう結びつき、日本がどう関わり合ってきたかを多角的に学ぶ教科であります。ありがたいことに、新たな教科の開始とともに新しい取り組みとして留学生と歴史で交流する経験をいただけたおかげで、高校生たちは日本を自分になかった視点から見つめることができている。改めて協力いただいた札幌大学のみなさまに感謝いたします。

そして私が一番感謝と讃辞を送りたいのは、授業に参加して下さった4人の留学生です。彼女たちが生まれ故郷を大切に、そして両国の歴史に敬意を払ってくれたおかげで今回交流が成功したといっても過言ではありません。伝えようという気持ちが高校生にも伝わり、9割の生徒が「他の国の歴史に触れることで、歴史をより勉強したくなった」と回答し、ほぼすべての生徒が「3か国への興味関心が高まった」と回答しました。私自身もここまで良いリアクションがあるとは想像していませんでした。4人との素晴らしい出会いに感謝します。